

シンボルマークはオズの魔法使い

① ここがポイント

大学と連携して、空き店舗を活用した「街なかボランティア・ピース」による商店街のコミュニティ機能の強化と活性化。



(空き店舗を活用したコミュニティ施設
(街なかボランティア・ピース))

■ 事業実施の経緯

モトスミ・オズ通り商店街は、東急東横線元住吉駅東口の街区に位置する商店街で1997年モール化の実施の際に“オズの魔法使い”をシンボルマークとしている。また、組合員と地域の人々が触れ合える共同セールとイベントを展開し、地域社会との一体感が図られつつある。さらに、空き店舗を活用し、コミュニティスペースの設置を行い、住民の交流・ボランティア等、商店街のコミュニティ機能の強化と商店街の活性化を目指す取り組みを始めている。

オズ通り商店街に活気を取り戻す「らしさ」を求めていた時に、慶応大学ボランティアサークル「ピース・プロダクション」と出会い、ボランティア活動には

人の心に訴える「優しさ」があり、この「優しさ」を商店街の「らしさ」にしていくことにした。この拠点として空き店舗の有効利用が検討された。

■ 事業の概要

① オズの魔法使いをシンボルに

1997年にオズの魔法使いをシンボルマークに制定し、ちなんだイベント、セールを実施していた。

② 街なかボランティア・ピース

オズ通り商店街と慶応大学ボランティアサークル「ピース・プロダクション」が共に運営する空き店舗を活用したコミュニティ施設。

・子育て中の母親のための交流事業

託児サービスを実施するとともに、無料休憩施設として開放し、トイレや授乳、食事等のための利用を可能としている。

・子供が参加できる場づくり

ボランティアサークルとの連携の下で、「子供が学び・遊べる場」である「寺子屋塾」を開催している。

・高齢者交流事業

シニア企業家グループ「かわさき創造プロジェクト」と連携して、高齢者対象のパソコン教室などの開催や、シニア交流サロンの運営を行っている。

また、月に1～2回の在宅介護相談を開催している。

③ セタボランティアフェスタ

ボランティアサークルとの連携の下、地元住民・子供参加型のイベントを実施した。また、恵まれない子供たちへの募金や支援物資の受付窓口を設置した。

■ 事業の効果

地域でボランティアに取り組む優しい商店街として認知され、イメージが向上。施設利用者の買い物による新たな顧客の獲得。事業運営の検討会等が開催されることによる組合員の連携関係が強化。

■ 事業の課題

駅前という立地から人通りが多いが商店街で買い物をする人が少ない。

現状では事業に取り組む際に組合員全員の協力を得るまでには至っていないため、更なる組合員の協力が必要。

「街なかボランティアピース」の事業に係る費用については、国と市の補助金を受け運営してきたが、今後は補助金に頼らないよう、事業による収入を得る仕組みづくりが必要。

モトスミ・オズ通り商店街

所在地 : 神奈川県川崎市中原区木月386
 会員数 : 120名
 商店街の類型 : 志願型商店街
 関連URL : <http://www.oz-doori.com/>



子供が学び・遊べる場である「寺子屋塾」



ボランティアに取り組む子供達